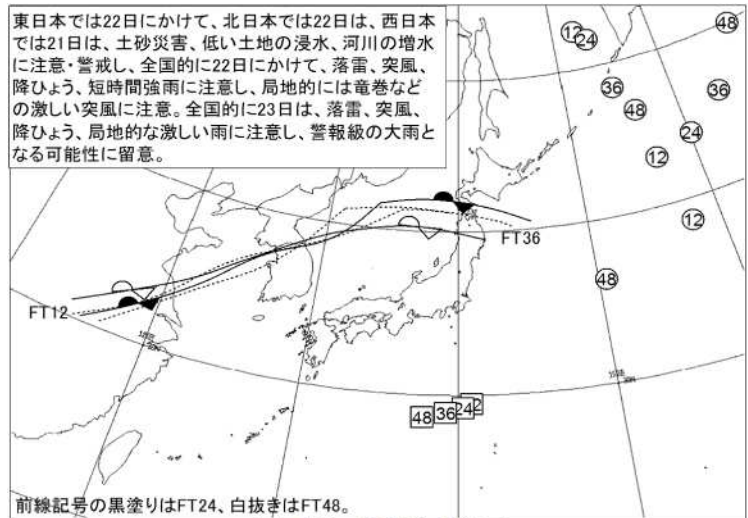


短期予報解説資料 2026年7月21日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5880m以上の上空の高気圧が北～西日本を覆い、日本の東の高気圧とフィリピンの東の高気圧が日本付近へ張り出し、広い範囲で晴れて、多くの地点で猛暑日となり、岐阜県、愛知県で40℃以上の気温を観測し、酷暑日となった。地上の昇温の影響で、北～西日本では局地的に激しい雨や非常に激しい雨を解析し、発雷を検知。
- ② 500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応した前線が華中から日本海を通り、東北地方付近へのびている。
- ③ 500hPa 5820m付近の正渦度極大域が、北日本を持続的に通過している。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の上空の高気圧は22日にかけて東～西日本を覆い、1項①の日本の東の高気圧は23日朝にかけて日本の南へ移動し、引き続き日本付近を覆うため、晴れて昇温する。これまでの昇温で大気下層の気温が高いことに加え、高気圧の縁辺を回る西寄りの風が陸上で吹くことや、太平洋側では北西寄りの風の影響で内陸に海風が入り込みにくいことから、東～西日本では広く猛暑日となり局地的には酷暑日となるおそれがある。熱中症などの健康管理に注意。1項③の500hPa 5820m付近の正渦度極大域は、23日にかけて断続的に北日本を通過する。1項②の前線は、23日朝にかけて、華中から日本海を通り北日本へのびて停滞する。前線に向かう下層暖湿気、上空の正渦度極大域、地上の昇温の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う非常に激しい雨の降る所がある。東日本では22日にかけて、北日本では22日は、西日本では21日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、全国的に22日にかけて、落雷、突風、降ひょう、短時間強雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。大気の中下層で風が弱く、対流雲が発達した際に雲域が停滞し、降水量が多くなる可能性に留意。

- ② 23日は、引き続き、2項①の日本の南の高気圧が日本付近へ張り出し、上空の高気圧にも覆われるため地上で昇温し、猛暑日となる所が広がり、局地的に酷暑日となるおそれがある。2項①の前線は、やや南下しながら、華中から北日本付近へのびて、500hPa 5820m付近の正渦度極大域も断続的に北日本を通過する。また、500hPaで-6℃以下の寒気が北日本へ南下する。地上の昇温、上空の正渦度極大域、前線に向かう下層暖湿気、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。全国的に23日は、落雷、突風、降ひょう、局地的な激しい雨に注意し、警報級の大雨となる可能性に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①、②の前線や降水域の広がりや予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量（18時からの24時間）：多い所（100mm以上）はない。② 波浪（明日まで）：高い所（3m以上）はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。